

同窓会だより

関東あまたか会会長
松尾和幸(高16)

「あまたか関西」の皆様、いつもお世話になっております。今回は、関東あまたか会の活動状況についてお話しします。当会の年度開始日は1月1日。1月に#1役員会を開催して年度事業計画を策定。役員会は年に7回開催。特異な行事として、2月会報発送作業、終わったら大学卒業生の卒業祝兼就職祝。3月下旬に観桜会(千鳥ヶ淵・外濠公園)。6月に天高新卒者の歓迎会。8月総会案内状・会報発送作業。10月総会・友好の集い。11月総会の反省会・写真送付作業を実施。観桜会は恒例化しており楽しみの一つ。新卒者の歓迎会は初顔合わせ、今年はどうな子が来るのかととても楽しみな会。卒業祝は、時期が2月のために、残念ながら出席状況に難点あり。年2回の会



報発送作業は、1700部を超える封筒詰め作業、この単純作業が皆さんおしゃべりしながら楽しんでいきます。総会の反省会時に、総会出席者に対してお礼状並びに総会の記念写真及びスナップ写真の封筒詰め作業。これも楽しみながらの作業。

今年の総会・友好の集いは、10月14日(日)12時から四ツ谷の「スクワール麹町」にて開催します。ご都合よろしければ、お気軽にご出席ください。大歓迎いたします。

天草高校同窓会中京支部会長 大谷 寛(高25)



今年もあまたか関西の支部総会にお招き頂き、ありがとうございます。毎年楽しみにしています。愛知県の豊田市の山奥に足助町という紅葉で有名なところがあります。先日中京支部の尾田原先輩の絵画展があるというので行ってきました。名古屋近郊とは言え中々行きづらい所です。足助は江戸時代天草を救済した鈴木正三・重成公生誕の地であることは知っていましたが、今でも足助の人達から郷土の偉人、顕彰会という形で崇敬されている事を知り驚きました。近所の方が毎日当番で鈴木家の陣屋跡近くの正三記念館の鍵を開け、管理されていると

の事。正三公園・正三記念館には、いろいろな資料が展示してありました。そして、足助・矢並小学校と天草の本町小学校とが15年にわたり、交流を持ちお互いの学校を訪問しているとの事でした。全く知りませんでしたし、資料館の芳名帳に昨年あまたか関西の総会で講演された鈴木神社の田口宮司の名前を見つけたときは驚きでした。鈴木正三・重成公が愛知県の山奥で天草と同様に崇敬されていることを嬉しく思いました。

今年で中京支部会長となり2年が過ぎました。その間、本部・各支部を訪問して多くの先輩方と知り合うことが出来ました。そして天草高校卒業という事だけで仲良くなれ、すぐに天草弁が飛び出してきました。これからは遠く天草を離れていても母校天高の役に立てるように、そして天草への望郷の念が中京支部会員拡大と繋がるよう頑張りたいと思います。

今年のドクダミ、庭の片隅をドクダミが占領しています。さて、このドクダミをどう料理しましょう。25度の焼酎にドクダミの葉を漬けて込んだドクダミのうがい薬を友人にいただいたので、今年は庭の片隅のドクダミで挑戦してみます。あの小さな花も一緒に付けこもう。



～日本の宝島 天草の創造～

当金庫は、明るく豊かで住み良い地域社会の創造に、地域密着型金融を通じ、文化・芸能、教育、スポーツ、環境などの様々な分野に、これからは積極的に取り組んでまいります。

夢・希望・未来
天草信用金庫
http://www.shinkin.co.jp/amakusa/index.php
Eメール: s1955003@amashin.net

(杜福) 敬信会 大矢崎保育園
理事長 奈良崎孝一郎(高20)
〒863-0001
TEL 0966991111
FAX 0966991115

奈良崎動物医療センター
院長 奈良崎 和孝(高46)
〒863-0001
TEL 0966991335
FAX 0966992254

Aya小児・矯正歯科クリニック
院長 佐々木 文(高48)
〒863-0001
TEL 0966991762
FAX 0966991170

道ひとすじに

インタビュー記事

安田幸美さん（高20回卒）

「保育所落ちた、日本死ぬ！」とネットの投稿が話題になり、国会でも取り上げられたのは2年前でした。保育行政の貧弱さと、携わる保育士の働く条件の悪さが世に知らされた出来事でした。

安田幸美さんは35年間保育士として働き続け、更に現在は幼児教育の現場で、国も進める新しい保育行政の真っ只中で奮闘している人です。

子どもの頃、父は働くことに労を惜しまない人で、畑仕事はもとよりチャッカ船で漁をしたり、その船で行商に行ったり生活感溢れる人でした。しかし、懸命に働いても貧しい暮らしが変わることはなく、そんな父と優しい母と4人の子どもたちが肩を寄せ合って生きていたのです。歳の近い三姉妹とちよつと離れた弟で、姉妹はいつも一緒でした。家の手伝いも遊びの延長で、その手伝いが楽しかったと彼女は言います。

高校進学は定時制に行こうと決めて就職の準備をしていたのですが、翻してくれたのは小学校の先生でした。特別奨学金制度の話をしてぜひ高校へと、両親を説得してくれたのです。そうした後押しで、天草高校へ進むことになったのです。

高校卒業後、都会に出たらきつと道が開けると信じて大阪で就職。病院事務の

仕事についたのですが、それは目指すものではなかったのです。2年が経ち、ある日寮の同室の人から夜間の短大の話を聞き、目の前が開けたのです。この道を進もうと、すぐ実行に移しました。夜学に通える仕事に変わり、短大の夜間部で学びました。働きながら学ぶという辛さは、まったくなかったと彼女は言います。

2年後卒業して保育士と幼稚園教諭の資格を取り、東大阪市立の保育所に就職。保母さんとしての第一歩を踏み出したのです。公立は私立に比べたらまだ恵まれた環境ですが、働く母親に代って子どもを守る任務は重く大変な仕事です。そして35年間、この仕事が続いていくのです。



し世話をする彼女を、やがて親たちも認めてくれるのです。彼女は子どもと一緒にいるのが大好きなのです。それは幼い頃、妹たちと天草の野山で海で遊んだ楽しさが、生き続けているのでしょう。35年間事故はなく、記憶に残るような嫌な思いもなく働き続けられたのです。

人の紹介で、見合い結婚をしたのが25歳の時。相手は自営業の人で、母ひとり子ひとりの家庭でした。結婚したら専業主婦かな、なんて考えていたそうです。ところが天草の父が夫や姑に、「この娘は、苦労して苦労して今の資格を取った。仕事を続けさせて欲しい」と懇願したことを知ったのはずっと後のことでした。

幼稚園の園長をやらないか、という話が舞い込んできたのは定年を3年残した57歳の時でした。面接に行ったら、理事長夫妻に気に入られて、是非にという話になりました。当時は70歳になる女性のワンマン園長がいて、副園長として一年間共に働いたのですが、彼女のことを認めようとはせず、ついには引継も一切ないままの園長就任でした。

園長になって3年目に危機が訪れました。定員12名のところ園児数50数名程に落ち込み、園の存続が危ぶまれたのです。さらに追い打ちをかけるように、4人の教諭のうち3人が辞めてしまったのです。しかし、悩んでいても解決はしないと行動に移しました。それは辛い日々だっただろうと想像がつかず。娘の友人で現役の保育士を口説き落としたり、卒業した短大に行って紹介してもらったり、なんとか教諭は確保できました。

そして、保育所で培った経験を生かし、子育て支援の親子教室、未就園児クラブの開室。体育教室、英語の授業、課外授業などを取り入れました。みんなの意見を聞いて、力を借りて施策を進める、彼女のやり方が功を奏していくのです。良いスタッフに恵まれたと彼女は述懐しますが、徐々に園児数は増えていきました。

大阪市の「認定こども園」になり、待機児童解消のため0歳から2歳の保育園を併設。平成31年度の、国の子育て支援制度への移行も準備が進んでいます。現在は合わせて160名を越える子どもたちを預かり、職員も30名近くで、求人問い合わせがあるくらい評判は高くなっているのです。

6年前「歩き方がおかしい」と夫から指摘され、おかしいことが続けて起きたので、進められるまま検査を受けたら、脳腫瘍が発見されました。それで入院手術。夫と娘の看病を受けて、ひとり仕事を突っ走っていた彼女に、家族の大切さを改めて感じさせてくれる時間でした。

彼女はいつも前を向いて生きている人、グチは言わない人なのです。「物事を悪く取ったら自分が苦しくなる」と言った母の教え、優しい両親と暖かい家族と過ごした天草での生活が、彼女を支えてきたのは間違いありません。

後継者が今は決まりました。更に保育所時代の後輩が副園長として来てくれました。仕事も分散され、少しは楽になったようです。この辺で、軸足を移して家族に目を向ける時が来たような気がします。

（聞き手、前中、太田）